

私、4才になるまではめっちゃおとなしかったんやって。幼稚園とかでもずっとはじっこでぬいぐるみと遊んどる子みたいなの。人見知りもすごかったみたいやし。それがな、私が5才の時にアパートの階段から落ちたらしくて、それで頭めっちゃ打ったんやって。お母さんめっちゃ心配したらしんやけど、泣いたりもせんでびんぴんしとって。それから性格が180度変わって、すごいうるさいアホな子になったらしいんよ笑。それまでそんなに外で遊んだりせんかったんやけど、ずーっと外で遊んどるようになったんや。私、運動神経めっちゃ良くて小学校んとき6年間リレーの選手に選ばれとったんや。たぶん運動神経も頭打ったときに良くなったんやと思う。たぶん。

ドラムを始めたきっかけ？ それにはなー、ちよっとしたドラマがあるんや。お母さんと一緒に神戸に出かけた事があつたんやけど、8才くらいのときかなー。うちのお母さんはトランプトやつとるけんライブもよくやつとったんやけど、それまでは自分のライブに連れてってくれたことがなかったんや。子供がいると気が散るとか言うて。ひどいやろー。私やつたら自分の子供ができたら赤ちゃんのときからライブに連れていくよ。英才教育？笑 いや、そんなことないけど、たぶん赤ちゃんと一緒にライブやる。

これはマリエちゃんについての話だ。

マリエちゃんについての話。

まず語り手である私が誰であるかということについてお話しておこうと思う。私の名前は○×△。1984年8月9日生まれ。血液型はA型。星座は獅子座。動物占いではゾウ。カバラ数秘術では3。これをまとめてみると、人生をドラマティックにとらえ、地位と名声を求めている野心家。うぬぼれが強く、目立ちたがりで自分が特別な存在だと思いがち。一方、清楚で控えめな一面も。自分を表現するのが下手で、人に気を使わずに自分を理解してもらえない。さばさばした中性的なタイプ。面倒

見がよく、人が嫌がることも進んで引き受ける優しさが魅力。自由を愛し束縛を嫌う楽道家。誰とでも仲良くなるので交際範囲は広い。話し上手で周囲を楽しませるが、負けず嫌いで短気なところがある。ときに人に対して厳しい批判をする。

私は現在26才で出版社に勤めている。働きながら文章を書いている。

かつて天才に憧れ、今も天才に憧れている。

しかし最近自分が天才であるかどうかということについてはあまり考えなくなつた。天才か否かということよりも、もつと重要なことがあると思うようになった。

たとえばどうやって書き続けるか？

たとえばどうやってテーマを見つけるか？

たとえばどうやって自分の書いたものを人に読んでもらうか？

3

それで、それまでずっと家のまわりぜんぶ田んぼ！みたいなどこ住んどつたけん、神戸の都会っぷりに圧倒されて。車の音うるさーみたいな。でライブもかっこよかつた気がするんやけど、そこは実はあんま覺とらんのやけど。ライブのあとドラムのおっさんがスティックをくれたんよ。そのおっさんはお母さんと長いこと一緒にバンドしとつた人で。今でも仲良しなんや。それからスティックで何でも叩いて遊ぶようになったんや。

バンドをやり始めたのは13才んときからかなー。あ、でもちゃんとしたバンドなんかやなかつたけど。クラスにお笑いみたいな面白い男の子がおつて、その子がボーカルで私がドラムで変な曲ばっかやつとつたんや。バンド名は「Z」。なんかしゃぶしやぶの歌とかやつとつてー。あほくさ。笑 でも結構面白かつたんやで。私がドラム叩きながら「しゃぶ、しゃぶしゃーぶ。しゃぶ、しゃぶしゃーぶ：」って永遠バックコーラスするんや。その上でボーカルの子が「しゃぶしゃぶおいしい、とろける肉汁。」とか歌うんや。アホやろー。

Zはわりとすぐ解散して、そのあと何個かバンドやつたんやけど、どれも長続きせんかつた。私はもつとやりたかつたんやけど、みんなすぐ飽きるんよね。友だちとお喋りする方が楽しかつたみたい。だからしかたなく1人でドラムを叩いとつた。ストリートでもやつた。週1くらいで高松駅前で木箱とか持っていつて笑。だつてドラムセットなんか持っていけんやん、音が出ればなんでもえんや。そこで中3くらいのときかなあ。田中くんは声をかけられたんよ。(※編集部注：田中くんとはスーパーリ

ボンズの田中篤のこと。田中篤も香川県出身）田中くんはその高2やったかなー。私、学校帰りにストリートライブやとつたから体操着のジャージでやとつたんよ。だって家帰ってたら時間もつたいないし、制服でやるんもちよつとねえ。じゃあジャージでええかと。よく補導されんかったよね。のどかだったんだやね。田中くんはジャージでめっちゃドラム叩いとる変な奴がおるっていうので声かけたんやとつて。

田中くんはそのころから大阪とか福岡のライブハウスでもやとつたし、私からみたら超大人くって感じやった。まだスーパードラムは結成とらんときで、ブックスバーホーベンっていうバンドやったんやけど、私も入ることになって、元からドラムの人はおつたけんツインドラムのバンドになった。曲は全部田中くんが書いとつたんやけど、田中くんって細かいよねー。私はそれまでわりと適当っていうか、スコアは読めたけど大体の感じでやとつたけん、いろいろ揉めたな。笑 でも今から思えば良かったと思う。田中くんのおかげでスコアに忠実に叩く訓練ができたけん。スコアに忠実に叩けるっていうことはいろんなスタイルの曲が叩けるっていうことでもあるし、その上で自分の色とか味とかを出していけばいいわけやからね。まあ修行期間やつたね。バーホーベンでは初めてフジロックにも出たし、楽しかったよ。そのせいか高校は全然楽しくなかった。学校なんかやめてしまったかった。でもお母さんがせめて高校は卒業しなさいって言うけんしかたなく通つとつた。それなのに結局大学まで行つちゃつた。きっかけはステイブ・ライヒを聴いたことやな。ライヒを聴いて、こんな音楽があるんやって衝撃を受けたんや。それから現代音楽に興味を持ったんや。現代音楽の人って結構みんなインテリやろ。作曲法とか勉強しとるよね。それなら私も作曲法とか学ばななーと思つて、それなら芸大受験するか！って決めて。それが高3の春。それからめっちゃ勉強して、ま、なんとか入れたというわけです。

4

さてマリエちゃんの話。

私は10代後半から20代前半にかけて、マリエちゃんの深い影響下にあった。マリエちゃんのCDを聴き、雑誌に載っているインタビューを読み、記事をスクラップし、彼女のお気に入りであるコズミックワンダーの洋服を買い、言動を真似した。彼女は香川県出身で讃岐弁を隠そうともしなかった。その方言ばりばりのしゃべり方もかっこよかった。もちろん音楽もとてもかっこよかった。というか、彼女の作る音楽は誰にも似ていないし、ポジティブで、まさに天才の為せる業なのだった。コーネリアスもマリエちゃんは天才と言っていてからそれはたしかだ。私はMDウォークマン

でマリエちゃんの音楽を聴きながら高校に通った。タワレコでマリエちゃんがおすめするミュージシャンの音楽を買った。TVKでスポット的に流れるマリエちゃんのバンドのPVをビデオに録画するのに必死だった。

マリエちゃんは関西をベースに活動していて、今も私の中に根強く残っている関西コンプレックスはマリエちゃんになれなかった自分に対する屈折なのだ。マリエちゃんのバンドのメンバー、テツオくんはウイリアム・ブレイクが好きでよくライブでブレイクの朗読をする。そのせいで私はブレイクが好きになった。ブレイクの詩も好きだし、ブレイクの絵も好きだ。ブレイクは幻をみると書いて幻視の人みたいでイメージが独特だ。

ここでブレイクの詩をひとつ紹介。

In futurity

I prophetic see,

That the earth from sleep,

(Grave the sentence deep)

Shall arise and seek

For her maker meek;

And the desert wild

Become a garden mild.

In the southern clime,

Where the summer's prime.

Never fades away;

Lovely Lyca lay.

Seven summers old

Lovely Lyca told,

She had wanderd long,

Hearing wild bird's song.

Sweet sleep come to me

Underneath this tree;

Do father, mother weep. --
Where can Lyca sleep.

Lost in desart wild
Is your little child.
How can Lyca sleep,
If her mother weep.

If her heart does ake,
Then let Lyca wake;
If my mother sleep,
Lyca shall not weep.

Frowning frowning night,
O'er this desart bright,
Let thy moon arise,
While I close my eyes.

Sleeping Lyca lay:
While the beasts of prey,
Come from caverns deep,
View'd the maid asleep.

The kingly lion stood
And the virgin view'd,
Then he gambold round
O'er the hallowd ground;

Leopards, tygers play,
Round her as she lay;
While the lion old,
Bow'd his mane of gold,

And her bosom lick,
And upon her neck,
From his eyes of flame,
Ruby tears there came;

While the lioness
Loos'd her slender dress,
And naked they convey'd
To caves the sleeping maid.

大学は面白かったけど、なんかみんな真面目だったわー。真剣なんやけど、ちょっと内向きな感じもした。みんなあんまりヒップホップとか聴かんし、クラブとかも行かんのよね。本当に現代音楽をやりたいなら、普通はそういう音楽も聴くはずやんね。まあそういう意味ではあんまり話の合う友達はできなかったけど、でも大学で得たものも大きかった。特に良かったんは、うちの大学には美術学科もあるけん美術やつとる人と知り合えたこと。美術学科の子たちとは仲良くなったんや！ えっちゃんとは大学で知り合ったんや。(※編集部注：えっちゃんとは宮田悦子のこと。まりえちゃんのリライブでVJを担当したり、アルバムのアートワークなどを手がけている。)美術やつとる子と話すようになってアートの面白さを知った。ギャラリーとか行くようになったし、視野が広がった感じ。そういうところで知り合う子たちはクラブにも行くし、美術館にも行くし、文学にも詳しいいっていう面白い人らが多かった。刺激になったなあ。自分の方向性を探す役に立ったと思う。私が作る音楽をおもしろがってギャラリーで演奏させてくれる人もあった。今でもアーティストとか小説家とか異業種の人と話すんは大好き。そういう人と接するとインスピレーションが湧くけん。

大学を出たあともバンドは続けとった。しばらくバーホーベンもやつとったし、ほかにもいくつかバンド掛け持つとったけん忙しかったわ。5枚目のCDを出したあとバーホーベンは解散したんや。音楽はいい感じに深くなつとったけど、みんなの仲が悪かったわ。私としては中学生のころからやつとったし、思い入れもあったけん悲しかったけど、深刻に仲が悪かったけんね。解散はしかたなかったと思う。齋藤がビール瓶で田中くんの頭殴ったりしとったもん。そのあと田中くんはアンソニーとスパーリボンズを始めたんやけど、私はそれには入らんくて、自分でバンドを始めたんや。

京都でテツオのライブ見てヤバっと思って、一緒にやろうって言ったんや。テツオはチェーンソーのノイズをバックにウィリアム・ブレイクの詩集を朗読しとったんよね。しかも読み終わったページを破りながら。かつこよかったわ。テツオと2人で始めたバンドが「TheTheTheThe」。それが今でも続いとんや。

私の名前は○×△。昔マリエちゃんに憧れてたしがないOLです。
私の名前は○×△。昔マリエちゃんに憧れてたしがないOLです。

でも今だって天才になることぜんぜん諦めてないよ。

夏がくれば冬がくる。朝がくれば会社に行く。しかたないことです。当たり前のことです。

ねえねえ最近おすすめのCDありますか？ 音楽聴きたいなあ。最近聴いてないなあ。りそな銀行で5万円おろしたらすぐになくなっちゃうから、だから働かなくちゃなんだなあ。

私だって華やかに生きたいよ。

私だってインタビューとかされたいんだなあ。でもなんでかされてないみたい。

文章を書くのはむずかしい。文章を考えていると頭が重くなってくる。でも書いてみたいから書く。